

働きながら介護損失9兆円

生産性低下や離職

経産省「30年試算」

経済産業省は、働きながら家族を介護する人「ビジネスケアラー」を巡り、労働生産性の低下などに伴う経済面の損失が二〇三〇年に九兆円超になるとの試算を公表した。二五年に団塊の世代が全て七十五歳以上となり、介護が必要な高齢者

が増える見込み。働きながら介護する家族への支援が社会の課題となっていることを裏付ける形となった。

経産省の試算によると、経済損失の内訳は「仕事と両立困難による労働生産性損失」が約七兆九千億円を占めた。「介護離職による労働損失」は約一兆円だった。

経産省によると、二〇年

に約二百六十二万人だったビジネスケアラーが、三〇年に約二百十八万人へ膨らむ見通し。女性や高齢者の働く人が増え、介護と両立する人がさらに拡大する可能性もある。

経産省は、企業に対する両立支援ガイドラインを本年度に作成する方針。職場の環境の改善を進めるとともに、家事の負担を軽減するため、宅配や家事代行といったサービスの市場拡大も促す。